

2021年12月05日

バイデンの「民主主義サミット」とグアイド

Right-wing Venezuelan invited to so-called democracy summit in U.S.

December 2, 2021

MORNING STAR

米政府主催の「民主主義サミット」にベネズエラの右翼代表が招待



マスコミに語る右翼代表のフアン・グアイド（11月22日 カラカス）

バイデンの「民主主義サミット」

バイデン大統領は米政府主催の「民主主義サミット」に、ベネズエラ野党極右派のフアン・グアイドを招待すると発表した。

百カ国以上を招待した2日間の首脳会議は、広範な批判の的となっている。

ポーランド、フィリピン、インドが招待された一方、ロシア、トルコ、中国は出席を禁じられという、異例の構成となっているからだ。

北京政府は、台湾政府が招待されたことに対して衝撃を受けた。そしてワシントンの中国に対する新たな冷戦のステップと受け止めた。

中国は米国が独立国家として認めていない台湾を招待することを「間違った決定」と批判した。そして国交回復の「一つの中国」という原則を尊重するようワシントンにもとめた。

多くの批評家は、グアイド氏の招待もまた、首脳会議の信頼性を損なう可能性があると思いをひそめました。

グアイド氏の非民主主義的な素性

というのも、グアイド氏の政治的背景は不確かで、あまり良い評判がないからだ。

彼は、トランプとバイデンの両政権によってベネズエラの暫定指導者として認められている。

しかし彼はこれまでの6年間、一度も大統領選挙に立候補したことがなく、そもそも6年以上にわたって選挙に参加したことさえない。

その代わりに、グアイド氏は何度もクーデターの企てにかかわっており、それらはいずれも失敗に終わっている。

また2019年には、ベネズエラの現大統領ニコラス・マドゥロの誘拐作戦にも関係していたことが明らかになっている。

これは米国の傭兵部隊による秘密作戦で、大統領の誘拐・殺害を狙ったものとされ、グアイドが命令文書に署名したと言われている。

米国に従えば「民主」、従わなければ「制裁」

先週末のブルームバーグ紙の記事は「民主主義サミット」についてこう説明している。

「世界の多少なりともリベラルな国々がアメリカ主導の同盟を結んで、権威主義勢力に対抗する集会」

バイデンは「民主主義と独裁政治の間の世界的な闘争」について語った。そしてロシアと中国に対する敵対的な姿勢をさらに強め、他国の支持を集めようとしている。